

講義名	公共経済論		
担当教員	竹内 信行		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	3年生	単位数	2
備考			

主題と概要

公共経済論とは、政府などの公共機関が行う経済活動を分析する学問です。政府の経済活動は、道路整備などの公共事業だけでなく、各種の規制政策、社会保障政策など、多岐にわたります。そして、私たちは新聞やテレビなどのメディアを通じて、これら政府の経済活動に対する様々な批判や意見を日々目にします。本講義では、政府の果たす役割やその必要性を経済学の視点から学び、みなさんが「政府による様々な経済活動の利い」や「その評価」について正しく理解・判断できるようになるための基礎知識の習得を目指します。

取り扱う内容の多くはミクロ経済学の知識を基にしており、複雑で難解な面もありますが、「丁寧な解説を心がけ、楽しく学んでいけることを目標にします」。

到達目標

公共経済学の基本的な知識の習得を目指し、以下の諸点ができるようになることを目指します

(1) 公共部門の役割を経済学的視点から理解できるようになる
(2) 需要曲線・供給曲線を用いて、市場メカニズムやその効率性について説明できるようになる
(3) 市場の失敗について学び、様々な規制や公共政策の役割を理解する
(4) 公共財の特色や、その供給の仕組みについて理解する

提出課題

原則、毎授業後に
・学習内容に関する確認問題
・授業で学んだことや感想・質問に関する自由記述
の2種類の課題を出題します (respon もしくは 小レポートとして実施する予定です)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

毎回課される課題のでき具合や回収した感想・質問は、授業内で講評したり授業計画の修正の参考にしたりします。また、確認問題に関してはその解答・解説を公開します

評価の基準

・平常点：40% (毎回の課題の提出状況や、その取り組み具合などで評価)
・定期試験：60%

履修にあたっての注意・助言他

・「バツと聞いて分かる」というよりは「じっくり考えて分かる」ことが多い学問です。そのため、授業内容の理解には「根気」と「努力」が必要になります

・授業の内容上、数式や図表を用いることがあります。それにともなって必要となる数学については適宜、説明を行います

・毎回の授業は、連続ドラマのようにそれまでの授業内容を前提とした「続き物」になっています。そのため、授業内容が途中で分からなくなると、授業自体がつまらなく辛い時間になってしまいます。大学の授業は皆さんにとって初めて聞く内容が大半であり、最初から分からないのは当たり前です。恥ずかしがらずに積極的に質問をし、疑問点は早め解消していきましょう

教科書				
.使用しない.				

プリント資料及び参考文献

ハンドアウトを配布するため、教科書は必要ありません。しかしハンドアウトだけでは不安を感じる方は、下記にあげる参考文献の中から自分にあったものを用意してください

- ・安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。
- ・寺井公子、肥前洋一『私たちが公共経済』有斐閣、2015年。
- ・上村敏之『公共経済学入門』新世社、2011年。
- ・井堀利宏『基礎コース 公共経済学 第2版』新世社、2015年。

授業計画

第 1 回 公共経済学とは

第 2 回 ミクロ経済学の概論 (1) 市場の役割

第 3 回 ミクロ経済学の概論 (2) 需要曲線と消費者余剰

第 4 回 ミクロ経済学の概論 (3) 供給曲線と生産者余剰

第 5 回 ミクロ経済学の概論 (4) 供給曲線の背後にあるもの

第 6 回 ミクロ経済学の概論 (5) 市場メカニズムと余剰分析

第 7 回 政府による価格政策の効果

第 8 回 政府による各種規制の効果

第 9 回 市場の失敗

第 10 回 自然独占と価格規制

第 11 回 外部性 (1) 外部性とは?

第 12 回 外部性 (2) コースの定理

第 13 回 外部性 (3) 波及効果による外部性

第 14 回 公共財

第 15 回 これまでの学習のまとめ

授業予定の消化より受講生の理解の方を優先するため、授業計画通りに進まない場合もありますが、あらかじめご了承ください

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

下記を目安に復習を中心にして準備学修に取り組んでください。

- ・授業内で使用したハンドアウトを用いた学修内容の復習する (1.5 時間程度)
- ・毎授業後に課される確認問題に取り組む (1 時間程度)
- ・授業で学んだこと、質問事項などをまとめる (0.5 時間程度)
- ・確認問題の解説を確認する (1 時間程度)

特に、授業等を通して人から教えてもらっただけでは「分かった気」になってしまい、いざという時に学習した事を生かすことができません。内容をしっかりと理解するには「その内容を他の人に説明できるようになる」ことを目指して復習することが大切です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業での学修は、学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力のうち、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の養成を目指すものである。特に、経済学の科目として「社会に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察できるようになる」「世の中の動きを理解し、現代社会の経済問題に関して解決策を考えるための基礎知識を習得する」ことを目指している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

使用した教材や課題の解答・解説等は適宜、RYUKA Portal で公開していきます。授業の復習などに活用してください

実務経験の有無及び活用

備考

・ミクロ経済学やマクロ経済学の応用科目であるため、内容は若干難しくなります。しかし、根気と努力をもって取り組めば、内容を理解できるように工夫しながら講義をすすめていきます

・新型コロナウイルス感染症の流行などの社会状況によってはシラバスに修正が加えられる可能性もあることをあらかじめご了承ください